

【赤碕地区】地方創生意見交換会（結果）

日時：平成 27 年 6 月 24 日（水）19：30～21：00

場所：赤碕地区公民館 研修室

1. 参加者	参加者 22 人、職員 4 人（小松副町長、遠藤企画情報課長、山根、佐藤）
2. 開会	小松副町長（あいさつ） 遠藤課長（資料の説明）
3. 主な意見	<p>●コトウラで育む</p> <ul style="list-style-type: none">・教育の効果が現れるのは 50 年後であるといわれている。地区運動会の種目を中学生に考えてもらい、参加を促すような取り組みを始めた。いま子供たちを大切に教育を行えば、将来帰ってくるのではないかな。・英語に特化した教育の実施によって移住者が増えた市町村もある。・地元の子供たちはどんな仕事があるかわからないので、地元の産業、仕事を学ぶ機会を設ける。・農業関係やグルメストリートといった枠をはずして婚活を行うことで出会いの機会が増えるのではないかな。 <p>●コトウラで創る</p> <ul style="list-style-type: none">・町の主要産業である農業の振興だけではなく、工業団地を誘致して働く場所の確保が必要。・学校を卒業して地元で就職したいが、それができない現状がある。そこを解消すれば若年人口は増えるのではないかな。・企業誘致には、道路網などまだまだインフラ整備が必要である。・農業後継者の育成を考えていかなければますます衰退していく。 <p>●コトウラで輝く</p> <ul style="list-style-type: none">・女性がいきいきとしているまちは活力があり、そういったまちは人が集まる。若い女性がいなければ「育む」ということもできない。 <p>●コトウラに根づく</p> <ul style="list-style-type: none">・健康に暮らしていけるような取り組みは今現在も行っているが、さらに充実させ、いつまでも健康でいられるようなまちづくりを推進する。・高齢者が元気になる取り組みのひとつとして、来月から茶話会を開催する。・奨学金の免除など学生が帰ってくるような施策の実施。
4. その他	<ul style="list-style-type: none">・5 年間の総合戦略ということであるが、人口減少に対して 5 年間は短く成果が見えにくい。・地方がいろいろな知恵を出して取り組んでいくことが大切。・都会の高齢者を元気なときから地方へ移住させる日本版 CCRC は、医療費の問題もあり反対である。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・地方創生といった町のことに関心がない町民が多い。・地方創生は短期間で解決する問題ではないので、長期展望が必要。・市町村の垣根を越えて、中部全体が発展するような取り組みを行う。・議会の一般質問をこれまでのような質問型ばかりでなく、町民の声を聞き提言型にする必要がある。・子育て世代は、夜の会合に出て行くことがなかなかできないので、地域に出て行って意見を聞く機会を設ける必要がある。・海士町は何があるというわけではないが、人口が増えている。そのような魅力づくりを琴浦町も行っていかなければならない。 |
|--|---|